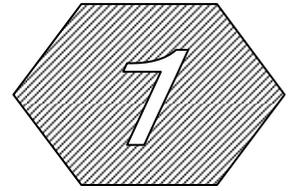


東京物語 STORY



2011年 8月6・7・8日 第142回学校体育研究同志会全国研究大会速報
東京大会実行委員会編集部

すべての子どもたちに豊かな運動文化と生きる力を ～ 学び つながり とともに未来へ ～

全国の仲間のみなさん ようこそ東京へ！

大会実行委員長 片桐雄一

全国からお集まりいただいた仲間のみなさん、ようこそ東京へ！ さまざまな大変さ乗り越えて「東京大会」にお集まりくださったみなさんを心から歓迎します。

3月11日東北地方をおそった大地震は、たくさんの尊い命を奪い、広大な地域に甚大な被害をもたらしました。大きな悲しみに加え、原発事故という異質の危機も収束の見通しが無いまま、今なお9万人を超える方々が避難生活を余儀なくされています。

第142回全国研究大会は、このような大震災後の最初の全国研究大会として行われます。今、私達の中に3.11を契機に政治や社会へも見方、学校のありよう、自身の生き方や考え方に大きな変化が起きつつあります。この大震災から私たちが突きつけられた教育や学校への問いを受け止めながら、全体行事をはじめ三日間の分科会・特別講座を実りあるものにしていくために実行委員一同がんばっていきます。

学び合いましょう！

この大会に全国から集まった体育・スポーツ・健康教育の殊玉の実践提案と、そこに込められた教師の願いや思いを学び合いましょう。数多く用意された特別講座から、子どもの確かな発達を中心に据えた豊かな実践を学びましょう。「震災を語るつどい」として行われる、東北宮城からの貴重な報告から、今私たちがやるべきことを考えましょう。

つながりましょう！

「学生も教師も研究者も、初参加者も、誰もが自由に意見を述べ合い、経験を分かち合って、民主的な運営をする」のが体育同志会の財産です。自由で対等・平等な討論を通して、子どもを守り育てる営みにかかわるすべての人たちとのつながりに広げましょう。自己責任や個性化の下、希薄になりがちなかかわりを、確かなつながりに変えていきましょう。

えがきましょう、私たちの未来を！

1955年の冬、体育同志会はこの和光学園（世田谷校舎）で新しい体育研究をめざした7人の教師から生まれました。先人がえがいたと同じように、私たちも今学校や教育のあるべき姿を真剣に話し合い、2学期の学校・教室での実践課題を共有しましょう。

えがきましょう、私たちの未来（あす）を！



子どもの未来を切り開く教育について語り合おう

森 敏生（学校体育研究同志会全国常任委員長・武蔵野美術大学）

【ようこそ、夏の全国大会へ】

全国から参加のみなさん、ようこそ夏の全国大会に。大会に主体的に参加を決意されたみなさんに敬意を表し、主催者を代表して心より歓迎の意を述べたいと思います。

わたしたちは、みなさんと一緒になって実り多い大会になるよう奮闘していきます。多いに学び、議論し、交流しあいましょう。

【3.11東日本大震災から学ぶこと】

東京大会は未曾有の被害をもたらした東日本大震災の深い傷が生々しく残る中で開催されます。あらためて尊い命を失われた方々のご冥福をお祈りし、甚大な被害を受けられた方々に心よりお見舞い申し上げます。

あの震災から5ヶ月が経ちました。被災地の人たちの復興にかけた不屈の取り組みと全国からの支援の結集によって少しずつ再建・復興が進められています。けれど、本格的な復興にはまだ多くの時間がかかります。原発事故の被害の影響はいまなお計り知れません。

東京大会のサブテーマ「学び、つながり、ともに未来へ」は、3.11を経験したいま特別の意味を帯びています。今大会には深刻な被害を受けた地域からも仲間が参加しています。困難な条件のなかで学校と地域の復興への歩みを担い、子どもたちに寄り添って実践を再開させています。今大会では折に触れて被災地の現実を共有し、取り組みに学んで、生きるということの原点に立って体育・健康教育のあり方を考え、そこから「ともに未来へ」の道を探りたいと思います。

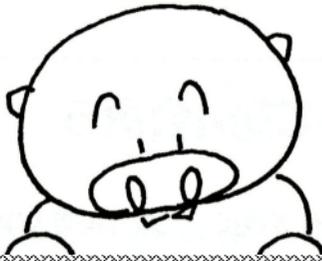
【子どもの生きるを励まし、未来を築く】

学校の教育実践はこれから生きる子どもたちの未来をどう切り開くのか。指導要領の本格実施も相まって、このことが今ほど問われていることはありません。「東京の教育」に典型的に見られるように、学校に広がる国家戦略としての「教育改革」や、行政・議会による教育への不当な介入は子どもの未来を決して保障しません。わたしたちは教育の困難と矛盾を乗り越えて子どもの生きるを励まし未来を築く教育実践を追求していく必要があります。

「学び、つながり、ともに未来へ」。被災地を含むすべての地域・学校の教師、子どもたちにこのテーマが意味あるものとして届くことを願っています。参加者それぞれが大会中の様々な提案、論議と実践の交流を自らの課題に引き寄せて、それぞれの地域・学校に持ち帰っていただきたいと思っています。



2011 TOKYO STORY



日本民間教育研究団体連絡
会からも、ごあいさつをいた
だきました。

日本民間教育研究諸団体の夏季全国集会参加の皆様へ

～子どもとともに震災に学ぶ教育実践の創造を～

猛暑と大震災後の困難な状況にもかかわらず、夏季全国集会にご参集ご苦労様です。

去る3月11日に発生した東日本大震災は、日本の社会に未曾有の被害をもたらし、被災された方々の生活と農林水産業の復興が重要な課題となっています。東日本大震災ではマグニチュード9.0という巨大地震とそれともなって発生した巨大な津波とともに、国際原子力評価尺度（INES）で、チェルノブイリ原発事故（1986年）と同じレベル7という深刻な原子力発電事故がもたらされました。FUKUSHIMAの名は、全世界に「あの技術大国日本で」深刻な原発事故が発生したという衝撃を全世界に与えました。

未来を生きる子ども達は、今後いつ果てるともわからない放射能という目に見えない災厄と否応なく向き合って生きていかなければなりません。子どもの権利条約に基づいて、被災した子ども達の健康に生きる権利や学ぶ権利を保障することが今最優先されなければなりません。また被災地のみならず、全国の教育現場で、この大震災から何を学ぶのが教育上の重要な課題となっています。各教科の特性と発達段階に応じて、「子どもとともに震災に学ぶ教育の実践」が求められています。

一方、参議院で憲法審査会規定が制定され、民主、自民など約百人の超党派の「憲法96条改正をめざす議員連盟」が設立されるなど改憲の動きも顕在化しています。この改憲の狙いが、「憲法九条の改正」にあることはあきらかです。震災にともなう大連立の動きに乗じて、この改憲が実施される危険性があります。

ポスト3・11を踏まえ、夏季全国集会で教育実践の交流を活発におこなうとともに、全国各地で「子どもとともに震災から学ぶ」教育を実践しましょう。それは必ずや広く国民の共感を呼ぶことでしょう。貴団体並びに夏季全国集会にご参集の皆様のご更なるご活躍を祈念します。

2011年盛夏

日本民間教育研究団体連絡会

みなさん、3日間、ケガのないように

△りせず、学習していきましょう！

（何かありましたら実行委員にお知らせ下さい。）

ようこそ東京へ！ 県別参加者数(8月3日現在)

今のところ、全国から **511名** の参加です！

まだまだ増加中！

